

# 平成20年度 事業報告書

自 平成20年 4月 1日

至 平成21年 3月31日

学校法人 尚美学園

# I 法人の概況

## 1 設置する学校・学部・学科等

(平成20年5月1日現在)

学校名	所在地		学部・学科等		入学定員	収容定員	
尚美学園大学	川越キャンパス	埼玉県川越市豊田町1-1-1	修士	総合政策研究科	政策行政専攻	10人	20人
			学士	総合政策学部	総合政策学科	220人	880人
					ライフマネジメント学科	140人	560人
	上福岡キャンパス	埼玉県川越市下松原655	修士	芸術情報研究科	情報表現専攻	10人	20人
					音楽表現専攻	10人	20人
			学士	芸術情報学部	情報表現学科	160人	700人
					音楽表現学科	140人	600人
	合 計					690人	2,800人

学校名	所在地	学部・学科等		入学定員	収容定員
専門学校東京ミュージックアンドメディアアーツ尚美	東京都文京区本郷4-15-9	音楽専門課程	ピアノ学科	30人	60人
			ヴォーカル学科	60人	120人
			管弦打楽器学科	120人	240人
			電子オルガン学科	30人	60人
			ミュージカル学科	60人	120人
			アレンジ・作曲学科	80人	160人
			プロミュージシャン学科	120人	240人
			ダンス学科	60人	120人
			音楽総合アカデミー学科	120人	480人
			声優学科	100人	200人
			インターネットミュージック学科	80人	160人
			音響・映像学科	80人	160人
			ミュージックビジネス学科	80人	160人
合 計			1,020人	2,280人	

## 2 役員の概要

### (1) 理事及び監事 (平成21年3月31日現在)

役 職	氏 名	現 職
理事・評議員	高野 文雄	理事長・専門学校校長
理事・評議員	松田 義幸	学長
理事・評議員	西岡 博之	法人本部長
理事・評議員	渡辺 省吾	法人本部副本部長
理事・評議員	高橋 利幸	外部理事
理 事	大木 啓介	総合政策学部長
理 事	皆川 弘至	芸術情報学部長
理 事	高山 弘憲	外部理事
理 事	野口 浩志	専門学校副校長
監 事	込山 進	
監 事	—	

理事の定員：9名

外部理事：うち2名

※ 監事1名は死亡により現在欠員となっている。(新監事4月1日就任)

### (2) 評議員 (定員：19名)

平成21年3月31日現在、評議員の総数は19名です。

## 3 教職員の概要

### 教職員数 (人) (平成20年5月1日現在)

区 分	大学		専門学校		計
	教員	職員	教員	職員	
本 務	95	89	37	73	294
兼 務	252	0	300	1	553
合計人数	347	89	337	74	847

#### 4 学校法人の沿革

- 1926年 音楽家赤松直氏 私塾「尚美音楽院」を開設
- 1954年 音大受験科開設
- 1959年 尚美高等音楽学園各種学校許可受領
- 1967年 学校法人尚美高等音楽学園として認可
- 1972年 学校法人尚美学園尚美高等音楽学院に改称
- 1974年 財団法人音楽教育研究所が本学園に移管
- 1976年 専修学校制度の発足に基づき、尚美高等音楽学院、専門学校認可  
ディプロマコース開設
- 1981年 尚美音楽短期大学開学（音楽学科・音楽情報学科）
- 1983年 尚美高等音楽学院に音楽音響マスコミ専門課程設置  
財団法人日本音楽教育文化振興会設立（財団法人音楽教育研究所を改組）
- 1984年 東京音楽音響マスコミ専門学院を設置
- 1985年 尚美高等音楽学院を「東京コンセルヴァトアール尚美」と改称  
東京音楽音響マスコミ専門学院を「東京音楽音響ビジネス専門学院」と改称
- 1986年 尚美音楽短期大学を「尚美学園短期大学」と改称（音楽ビジネス学科開設）
- 1989年 東京音楽音響ビジネス専門学院を「東京音楽音響ビジネス専門学校」と改称
- 1990年 尚美学園短期大学に情報コミュニケーション学科開設  
皇太子殿下、尚美学園バリオホールに行啓、音楽会を鑑賞
- 1991年 東京コンセルヴァトアール尚美と東京音楽音響ビジネス専門学校を統合
- 1998年 東京コンセルヴァトアール尚美を「専門学校東京ミュージックアンドメディアアーツ  
尚美」と改称
- 2000年 尚美学園大学を開学（総合政策学部・芸術情報学部）  
アメリカ・南カリフォルニア大学（USA）シネマ・テレビジョン学部と提携  
フジテレビジョンフォーラムにてSHOBI&USC提携記念「国際映画放送カンファレンス  
2000」を開催
- 2003年 専門学校東京ミュージックアンドメディアアーツ尚美 新校舎「アルテスク」完成
- 2004年 尚美学園大学大学院総合政策研究科 開設
- 2006年 尚美学園大学大学院芸術情報研究科 設置認可（2006年4月開設）
- 2007年 尚美学園大学総合政策学部ライフマネジメント学科 開設
- 2010年 専門学校東京ミュージックアンドメディアアーツ尚美を「尚美ミュージックカレッジ  
専門学校」に改称予定

## II 事業の概要

### 1. 当年度の事業の概要

全入年度を迎え、対前年で18歳人口が、130万人から124万人と、一気に約6万人減少したことを受け、全大学の約47%が定員割れの学部を抱える状況となったことなどが報告されたことを通じ、高等教育を取り巻く環境のさらなる悪化を強く実感させられる年度としてスタートした。この傾向は、平成21年度はさらに約3万人減少(約121万人)し、本学園も、平成21年度の学生募集において大変厳しい生き残り競争を繰り広げた年度となった。

特に、大学では、他大学において隣接領域や同一領域の学部学科等の設置が増加していること、専門学校においては、新宿コクーンタワーに代表される大規模校によるイメージ戦略、学生一極獲得戦略などによる環境変化の影響は小さくない。

一方、日本経済は、一定の回復基調にあるとの見解が示されていた中、2008年9月のリーマンショックに端を発する世界的な金融不安と企業の防衛的な消極経済活動、金融商品等による損失の激増、これらによる雇用情勢の悪化など複合的な要因が重なり合い、再び減速に転じ、本学の関係者にも影響が懸念される状況との認識を持っている。

このような不安定な環境を鑑みるに、本学の建学の精神「智と愛」並びに、本学の学問領域である芸術、文化、人間、社会は、殺伐とした現代に求められている社会の豊かさに合致しており、本学園の存在価値が極めて高いこと再確認する年度でもあった。

このような背景ではあるが、本学園の教育プログラムは、建学の精神や各設置校の運営目標「勇気・創造」、「時代に適応したクリエイティブな人材の育成」と照らして、完成されたものとは言い切れない状況であり、本年度はこの基本的方向の整理と施策決定に力点を置いてきた。

大学においては、平成12年度開設以降、様々な教育研究活動を通じて学部学科の教育研究範囲を拡充してきたが、改めて尚美学園大学の基本方向として「生涯学習型の高等教育機関」への方向性、「リベラルアーツとテクノロジーの融合による本学学生の共通目標となるリテラシー」の構築、「社会に開かれ、社会から評価を受ける組織運営」、「学生の実態を踏まえた教育研究のあり方」の検討などを示し、学生、卒業生、保護者、教職員、地域社会との連携、融合し、行動できる大学となることを目指すこととした。そのために、教職員が一体となって大学のよりよい運営を目指す能力要請のために『UD推進会議』を、学校法人尚美学園の存在意義、大学の設置趣旨を振り返り、尚美学園大学らしい教育とは何かを検討し実践するために『基本教育構想会議』、学生諸活動(特にスポーツ強化サークル)と教育内容の連動を図るために『スポーツ政策・運営会議』の設置を決め、平成21年度中にその答申と行動・実践を通じて、尚美学園大学らしさをよ

り鮮明にしていくこととした。

専門学校においては、競合校が専門学校だけでなく大学になってきている状況である。厳しい状況の中で、音楽学校としての伝統と独自性、専門性を強調し、高校・社会に広く認知を図るために平成22年度から名称を「尚美ミュージックカレッジ専門学校」に変更することになった。建学の精神「智と愛」に基づき、音楽を通じた人間教育を目指し、音楽の全てのジャンルを網羅し、安心して音楽と向き合える、出口を約束できる、音楽に専心した専門学校として飛躍を図る。

厳しい社会的背景ではあるが、設置学校の在学学生、多くの卒業生をはじめ、本学園に関係する多くの方々への社会的責任を果たすべく、基本を振り返り、次年度以降の運営について対策を定めた年度となった。

## 2. 事業報告

### 尚美学園大学

#### (新学長就任)

平成20年4月に、松田義幸が第二代学長に就任した。

松田学長から、尚美学園の沿革並びに尚美学園短期大学からの歴史を踏まえ、芸術と文化に関する教育研究に秀で、かつコミュニケーションを中心とした地域との関わりを網羅できる尚美学園大学の今後の基本方針が示された。

これを受け、各学部学科においては、学部長等の指示のもと、教育に関わる多岐にわたる議論と対応方法の検討が行われた。

#### (学生募集状況)

平成20年度の学生募集では、全学部全学科とも入学定員を満たし、収容定員についても満たすことができた。

学生募集は、大学キャンパスにおける説明会、キャンパス見学会、業者が主催するガイダンスへの参加など年間を通じた高校生や本学への進学希望者への積極的な接点を持つことによって出願者の確保に努めた。

あわせて、本学への通学圏にある鉄道各線の車内吊り広告、ドア横広告などにおいて、タイムリーな大学情報と説明会等の開催告知を継続的に行い、本学の存在認知について一定の効果を上げているとの認識をしている。

留学生についても積極的かつ継続的な活動を行っており、留学生の指導に定評のある日本語学校、専門学校に対する本学理解の推進と受験指導依頼を通じて、学習・研究に意欲のある多くの留学生が入学している。これは、本学における留学生ケアの徹底が安定的な入学希望者を受け入れられるもととなっている。

このほか、サッカー、バドミントン、剣道、女子硬式野球などの強化指定サークルに入部を希望する高校生などに対しても、積極的に本学の紹介を行い、文武両道を実現する学生の受け入れにも力を入れているところである。

#### (教育目標、重点教育活動の整理明確化)

平成 19 年度に開設した総合政策学部ライフマネジメント学科は 2 年度目を迎え、定員を大幅に超える受験希望者が集まった。

一方、総合政策学科、芸術情報学部情報表現学科、音楽表現学科及び大学院各研究科においては、出願者の減少がみられる。

学則において、教育目標を掲げたが、各学部学科、研究科では、さらに踏み込んでそれぞれの具体的な重点教育活動を明らかにしていくことについての検討を行ってきた。

目標とカリキュラムとの整合、教育方法との整合、授業運営方法の検証と必要に応じた改善を行うこととした。

#### (教育組織の再構築・整備)

本学の強みを教育研究に反映していくためには、現在の教育組織をその目的に照らして、検証する必要がある。

本年度は教育組織の再構築・整備のあり方について検討を行い、様々な視点を整理したうえで、UD 推進会議、基本教育構想会議の設置を決め、平成 21 年度から本格的な教育組織の再構築・整備の可否を検討したうえで、必要な施策をとっていくための基本となる意思決定方法を定めたところである。

#### (活気あふれるキャンパスの創造)

教育組織と再構築・整備とあわせて、活気あふれるキャンパスを構築するためには、教育研究活動、学生諸活動がそれぞれ分離して行われていても、継続的なキャンパスの活性化には繋がらない。

これまで、学生諸活動の活性化を通じたキャンパス内での学生の活動を促進すべく各種取り組みと整備を行ってきたが、大学の教育と学生諸活動が互いに関連を持ち、有機的に連携することが必要ではないかとの考えをまとめた。平成 21 年度から芸術情報学部強化指定サークルを教育の中に融合させると共に教育課程におけるスポーツ科目のあり方やスポーツ系の強化指定サークルの大学内での位置付けや教育と学生諸活動のあり方を検討するため、スポーツ・政策運営会議を設置することとした。

#### (大学行事・イベント等の統合的再編)

学内では、教育成果の発表をはじめ、学生諸活動、学生募集活動、地域貢献のためのイベント及び会場提供などが行われている。



特に教育研究領域が広範にわたる本学においては、このような機会の全てが教育の場となる可能性がある。各学部、研究科における実施状況を踏まえつつ、これらを有機的に融合する機能として、平成20年度内に、尚美総合芸術センター準備室を設置し、学部、研究科及び設置学校を超えた連携の可能性を模索し、平成21年度からは、組織として正式に発足させることとした。

今後は、学内外の関係を強め、学部間相互の連携を図る機構の一部としたい。

#### (教育改革の推進)

本学のカリキュラムは、平成12年度の開学時に定めたカリキュラムをベースに、必要と思われる科目を追加し、学生のニーズに対応してきた。

学生のニーズに適応するための行動は、必要な取り組みであるが、あわせて教育の基本や目標との整合を図ることが不可欠といえる。

これまでの改革の中心は、新規科目の追加による対応であり、総体的に開講科目が増加し、学生が履修科目を選択する際に体系性を認識することが難しくなってきたことに対応した、シンプルでわかりやすい目標、科目体系づくりがこれから求められていくと考えられる。

本年度はこれらに対応して、科目体系の意味について検討を加え、本学の教育体系の根幹をなす「両学部共通科目」と「専門科目」に着目した。

「両学部共通科目」は、本学教育研究のベースを構成する科目群であり、この両学部共通科目の改革を通じて、学生が参画でき、本学の教育目標を理解できるような体系づくりについて具体的な取り組みを検討するために、平成21年度から「基本教育構想会議」を設置することとした。

また、各学部学科においても、専門教育のあり方について、教育目標、育成する人材像などについての検証を開始し、今後の改革に備えることとしている。

教育改革の基本は、「尚美学園大学」らしい教育の実現であり、建学の精神や学園の沿革とは切り離せないものである。

産官学連携の試行プランとして、先に説明した尚美総合芸術研究センター準備室の取り組みとして、企業の教養研修の受託(平成20年10月～12月計3回)、小江戸川越をテーマにしたフォーラム(平成21年3月)を試行実施し、これらの内容、結果を教育に反映できるかどうかの検証も開始した。

今後、地域の企業との連携も密にし、本学への期待を十分に受け止め、教育改革の参考としていきたい。

(平成20年度予算における主な実施事業)

技術革新への対応、老朽施設の更新、学生の学習活動の奨励、学習・生活環境の整備など、取り組むべき課題は多い。

本年度特筆すべき点は、下記のとおりである。

### 当年度に行った主な事業・諸活動

#### A. 教育研究

(1) 学生のための教育研究環境の整備・活用

ア) 情報表現教育研究環境整備

○HD機材

○録音システム

イ) 音楽表現教育研究環境整備

○ピアノの更新

ウ) 総合政策教育研究環境整備

○資格取得奨励金

○コース別研究会の実施

エ) ライフマネジメント教育研究環境整備

○トレーニング室の運営委託

(2) 競争的研究資金の獲得

ア) 学術研究振興資金 1件

イ) 科学研究費補助金 2件

(3) 高度な学術・芸術との接点の創出

ア) 芸術情報学部「高校生映像フェスティバル」の開催  
(平成20年12月)

イ) 演奏会の充実

○音楽表現学科第6回定期演奏会の開催

(平成20年12月)

○オペラ「フィガロの結婚」の開催

(平成21年2月)

ウ) 「バリーハリスレクチャー&コンサート」の開催

(平成21年1月)

エ) 公開レッスン・個人レッスンの開催

(4) 学生のキャンパス生活環境の整備

- インフォメーションボード(電子掲示板)の設置
  - 上福岡キャンパス建物耐震工事の実施
- (5) キャンパス機能等整備
- 非常勤講師控室の整備 (上福岡キャンパス)
  - メディアセンター1F工事(川越キャンパス)
- (6) 地域交流の促進
- ア) 川越シティカレッジの開催
  - イ) 川越百万灯祭り・生涯スポーツフェスティバル・川越観光PRキャンペーン参加
  - ウ) 高校演劇祭(地区大会)のサポート・連携
  - エ) 小江戸川越フォーラムの試行
- (7) 事務の効率化(事務システムの更新)

## B. 学生諸活動等

### (1) サークル活動

#### 男子サッカー部

天皇杯埼玉県代表

関東大学サッカー2部リーグ

#### 女子サッカー部

第21回サッカーマガジンメグミルクカップ

2008全国レディース大会準優勝

全日本女子サッカー選手権埼玉予選大会 優勝

関東大学サッカーリーグ 2部昇格

第16回埼玉県女子サッカーリーグ戦1部 優勝

#### 女子硬式野球部

読売ジャイアンツ杯争奪 関東女子の部 3季連続3度目の優勝

全日本女子硬式野球大会 優勝

#### ゴスペルサークル

「Heaven Souls」 Gospel Awards 2008 ムードメーカー賞受賞

### (2) コンクール・オーディション合格・受賞等

「秘書技能検定試験」 団体優秀賞受賞

第24回名古屋文化振興賞 作曲部門 佳作 (音楽表現)

埼玉県親善大使 メキシコ州立自治大学 奨学生 (総合政策)

小江戸川越ビデオ大賞 優秀賞受賞 (院・芸術情報)

二科展 入選 (院・芸術情報)

NRI「学生小論文コンテスト2008」優秀賞 (総合政策)

第24回「名古屋文化振興賞」入賞 (音楽表現)

## 専門学校東京ミュージックアンドメディアアーツ尚美

専門学校東京ミュージックアンドメディアアーツ尚美は、「時代に適応したクリエイティブな人材の育成」を教育の基本に据え、音楽を通して人を育てる教育、音楽を愛する人が音楽の仕事に就ける教育、時代が求める能力・技術を習得できる教育、実践教育を通して仕事に結び付けられる教育、学生個々の目標・特性を尊重したパーソナル教育を推進してきた。

教育内容については、各学科が年度ごとに教育目標を立て、クォーターごとに達成度を確認して反省、改善を重ねている。今後も各学科が育成する人物像を明確にし、教育目標が達成できるカリキュラム構築の改善、教員の質の向上を図っていく。

平成 20 年度の事業報告については、次の通りである。

### 1. 独自性のある教育の充実

#### (1) 特別講師による最先端教育

最先端の知識・技能・スキルを修得する為に音楽、パフォーマンス、エンタテインメントプロデュースの各分野でオピニオンリーダーとして名高い方達を本学の特別講師として招聘し、特別講義をしていただいた。また、特別講師の方達には各々の分野で専門学校尚美との関係をPRしていただいている。

#### (2) 特別講座・特別レッスン・優秀者指導の実施

各学科が、カリキュラムの他に業界において持っていることが望ましい技能・知識を修得するために特別講座、特別レッスンを実施した。また各学科の成績優秀者には特別指導（ブラッシュアップ指導）を実施した。

#### (3) 業界フォーラムの開催

平成 20 年 11 月 22 日に第 3 回新時代の音楽ビジネスフォーラム 2008  
「音楽配信時代のヒットの方程式」を開催した。

### 2. 学生の教育成果の積極的露出の推進

学生が教育成果を外部に向けて発表することにより、学生の満足度とプロ意識の向上を図った。外部に向けて成果発表することは、一般聴衆から評価を得ることができ、それが自分達のレベル確認、反省、改善につながっている。また、成果発表会の一部は、「SHOBI NET-TV」でインターネットを通して世界中に配信している。

#### (1) 学科ごとに特色を活かした演奏会、発表会・研究会・卒業公演等

学科主催イベント年間合計 46 本。他に学内情報広場コンサート、地域交流コ

ンサート等多数。

(2) デビューセンターが運営する学内オーディション「S-1」開催と在校生デビュープロデュースを実施した。

- ・ S-1 オーディション 2 回開催
- ・ エイベックスレーベルからデビューした「ミストラル」のプロデュース支援

(3) SHOBI NET-TV の配信強化・コンテンツの充実

- ・ 配信コンテンツの収録・作成・アップ
- ・ 配信画面の整備
- ・ 携帯電話に対応させる配信画面の整備
- ・ サイト運営費

(4) 学校紹介ライブイベント「THE GIFT 2」実施

- ・ 渋谷O-EASTで2008年10月10日に開催した
- ・ 出演：在校生 ヴォーカルユニット、ジャズオーケストラ、ミストラル  
卒業生プロミュージシャン：ピストルバルブ、色糸ステラ、井上侑

### 3. 学生のためのインフラ整備

(1) 施設整備

- ・ 2号館外壁・防水塗装工事
- ・ ライブスタジオ・ブーカ天井バトン改修工事
- ・ 電気設備工事各館

(2) 機器

- ・ M601 教室 P C 31 台
- ・ M508 教室 P C 10 台
- ・ M502 教室 P C 20 台
- ・ M703 教室 P C 25 台
- ・ ソフトウェアアップグレード料
- ・ 4011 教室プロツールズ機器一式
- ・ 1401 教室デジタルピアノ 31 台
- ・ コンベンション長机 36 台
- ・ 1605 教室グランドピアノ 1 台
- ・ 他楽器、音響機器等

### 4. 奨学金

- ・ 特待生奨学金
- ・ ユニーク奨学金
- ・ 留学生奨学金
- ・ 20年度アカデミー進学特別奨学金

### 5. 学生福利厚生のクラス運営費支給

6. 学生募集・広報展開
7. 情報システムの保守・管理・維持  
サーバー、基幹ネットワーク、LAN、教室内パソコンのウィルス対策等の整備と安全な環境の維持費用。
8. 組織の基盤強化
  - (1) 研究会の実施
    - ①教育制度研究会、②外部提携研究会、③教育スタッフ研究会、④施設・インフラ研究会、⑤スクールアイデンティティ研究会
  - (2) 特定非営利活動法人私立専門学校等評価機構の基準による自己点検・自己評価の報告書を作成した。
  - (3) 教職員研修
9. 電気料・水道料・修繕費・清掃費等の運営・維持費
10. 就職、デビューの支援
  - ・社会資格・就業支援プログラム講座の実施
  - ・社会資格検定の実施
  - ・求人票・学校案内の印刷、発送
11. 資料、情報の提供
  - ・ナクソスミュージックライブラリーの提供
  - ・ミュージックショップテレビを情報広場で放映
  - ・図書・定期刊行物の閲覧
12. 地域に協力した文化事業の実施
  - (1) 文京区と共催で「文京区の文化を推進する会」公演を開催した。
    - ・春のバンドフェスティバル  
平成20年5月25日実施 於：文京シビックホール
    - ・ミュージカルスペシャルライブ  
平成21年3月8日実施 於：文京シビックホール
  - (2) 文京区と共催で「『文の京』の第九」公演を開催した。
    - ・平成20年12月18日実施 於：文京シビックホール
  - (3) 文京区主催事業への協力
    - ・年間5回のシビックセンターお昼休みサロンコンサート出演  
6月25日、9月24日、11月26日、1月28日、3月28日実施  
於：文京シビックセンター区民広場
    - ・オリンピック・パラリンピックムーブメント事業

平成 20 年 11 月 7 日 於：シビック大ホール

(4) 文京区後援事業への協力

- ・男女平等まつりにおける演奏会協力

平成 20 年 9 月 5 日実施 於：男女平等センター

- ・障害者就労センターにおける演奏会協力

平成 21 年 4 月 29 日実施 於：障害者就労センター

- ・文京朝顔・ほおずき市の運営・演奏会協力

平成 20 年 7 月 19、20 日実施 於：文京区内各所

- ・リサイクルフリマ会場演奏会協力

8 月 29 日、12 月 12 日、2 月 10 日 於：文京区役所内

- ・文京区社会を明るくする会 演奏会協力

平成 20 年 7 月 13 日実施 於：文京区役所内

- ・路上禁煙キャンペーン演奏協力

平成 20 年 6 月 30 日 於：文京区内

(5) その他地域機関への協力

- ・本郷消防署の防火週間キャンペーンの演奏協力

平成 20 年 11 月 12 日実施 於：文化シャッターホール

- ・本富士警察署の防犯キャンペーンの演奏協力

平成 20 年 8 月 30 日 於：真砂市場前

- ・日本サッカーミュージアム 5 周年記念イベント演奏協力

平成 20 年 12 月 22 日実施 於：日本サッカーミュージアム

- ・湯島幼稚園ミュージカル公演会

平成 20 年 11 月 5 日実施 於：湯島幼稚園

- ・しおみ幼稚園ミュージカル公演会

平成 20 年 12 月 18 日実施 於：しおみ幼稚園

13. 諸活動

(1) 音楽、メディア教育の発展、振興への寄与

- ・第 3 回新時代の音楽ビジネスフォーラム 2008 開催

「音楽配信時代のヒットの方程式」青山テルマ・G R e e e e N・谷村奈南がヒットしたわけ

平成 20 年 11 月 22 日実施 於：尚美バリオホール

- ・ヘブンアーティストにボランティア活動で運営参加

ヘブンアーティスト＝東京都が審査により選定したアーティストにライセンスを与え、都立公園や地下鉄駅など 48 施設を活動場所として提供している。＝

ヘブンアーティスト運営事業は東京都の主催で、尚美学生は N P O 法人日本



音楽映像ボランティアセンターを通して、正式に認められたボランティア活動として運営に参加している。

平成 20 年 5 月 4 日実施 ヘブンアーティスト in 銀座

平成 20 年 10 月 12 日実施 ヘブンアーティスト in 新宿

平成 20 年 10 月 18、19 日実施 ヘブンアーティスト in 三軒茶屋

平成 20 年 10 月 24、25、26 日実施 ヘブンアーティスト in 東京

平成 21 年 1 月 12 日実施 ヘブンアーティスト in 渋谷

## (2) コンクール入賞

- ・第 18 回日本クラシック音楽コンクール全国大会 第 3 位  
(音楽総合アカデミー学科管弦打楽器専攻 4 年生)
- ・第 18 回日本クラシック音楽コンクール全国大会 入賞  
(管弦打楽器学科 2 年生)
- ・第 20 回レ・スプレンドル音楽コンクール 入賞・奨励賞  
(ディプロマ科 2 年生)
- ・第 20 回声楽コンクール 入選  
(ディプロマ科 2 年生)
- ・第 40 回国際芸術連盟新人オーディション 合格・奨励賞  
(ディプロマ科 2 年生)
- ・ムジカ・サンタンジェロ第 3 回新人演奏会オーディション 合格  
(ディプロマ科 2 年生)

## (3) デビュー

- ・「ミストラル」

学内デビューセンター開催の第 5 回 S-1 オーディション優勝。2009 年 2 月  
エイベックスレーベルからメジャーデビュー

(ヴォーカル学科 2 年生、プロミュージシャン学科卒業生、アレンジ作曲学  
科卒業生がメンバー)

- ・「洗平」

ビクターエンタテインメントレーベルからメジャーデビュー

(ヴォーカル学科卒業生)

以上

3. 設備の状況

主要な設備の状況

区 分		面積又は数量
土 地	大 学	152,850.50 m <sup>2</sup>
	専 門 学 校	2,903.30 m <sup>2</sup>
	そ の 他	9,200.99 m <sup>2</sup>
	計	164,954.79 m <sup>2</sup>
建 物	大 学	37,463.52 m <sup>2</sup>
	専 門 学 校	14,999.15 m <sup>2</sup>
	そ の 他	0 m <sup>2</sup>
	計	52,462.67 m <sup>2</sup>
教 具 校 具 及 び 備 品	大 学	19,464 点
	専 門 学 校	5,538 点
	そ の 他	0 点
	計	25,002 点
図 書	大 学	147,958 点
	専 門 学 校	12,323 点
	そ の 他	0 点
	計	160,281 点

### Ⅲ 財務の概況

#### 1. 資金収支計算書

(単位:千円)

科 目	
学 生 生 徒 等 納 付 金 収 入	5,175,960
手 数 料 収 入	30,569
寄 付 金 収 入	75,757
補 助 金 収 入	274,528
資 産 運 用 収 入	70,905
資 産 売 却 収 入	100,551
事 業 収 入	23,013
雑 収 入	65,242
前 受 金 収 入	3,035,658
そ の 他 の 収 入	119,231
資 金 収 入 調 整 勘 定	△ 3,136,092
前 年 度 繰 越 支 払 資 金	5,140,220
収入の部合計	10,975,542
支 出 の 部	
人 件 費 支 出	2,837,526
教 育 研 究 経 費 支 出	1,269,390
管 理 経 費 支 出	896,357
施 設 関 係 支 出	48,480
設 備 関 係 支 出	178,817
資 産 運 用 支 出	646,237
そ の 他 の 支 出	689,319
資 金 支 出 調 整 勘 定	△ 377,259
次 年 度 繰 越 支 払 資 金	4,786,675
支出の部合計	10,975,542

## 2. 消費収支計算書

(単位:千円)

消費収入の部	
科目	当年度
学生生徒等納付金	5,175,960
手数料	30,569
寄付金	81,913
補助金	274,528
資産運用収入	70,905
資産売却差額	541
事業収入	23,013
雑収入	65,242
帰属収入合計	5,722,671
基本金組入額合計	△ 274,822
消費収入の部合計	5,447,849
消費支出の部	
人件費	2,852,113
教育研究経費	1,895,337
管理経費	949,424
資産処分差額	160,147
徴収不能引当金繰入額	32,027
徴収不能額	0
消費支出の部合計	5,889,048
当年度消費支出超過額	441,199
前年度繰越消費支出超過額	2,411,980
基本金取崩額	0
翌年度繰越消費支出超過額	2,853,179

3. 貸借対照表

(単位:千円)

資産の部	
科 目	本年度末
固定資産	30,629,883
流動資産	4,939,986
資産の部合計	35,569,869
負債の部	
固定負債	433,755
流動負債	3,424,589
負債の部合計	3,858,344
基本金の部	
第1号基本金	33,317,704
第2号基本金	800,000
第4号基本金	447,000
基本金の部合計	34,564,704
消費収支差額の部	
翌年度繰越消費支出超過額	△ 2,853,179
消費収支差額の部合計	△ 2,853,179
負債の部,基本金の部及び消費収支差額の部合計	35,569,869